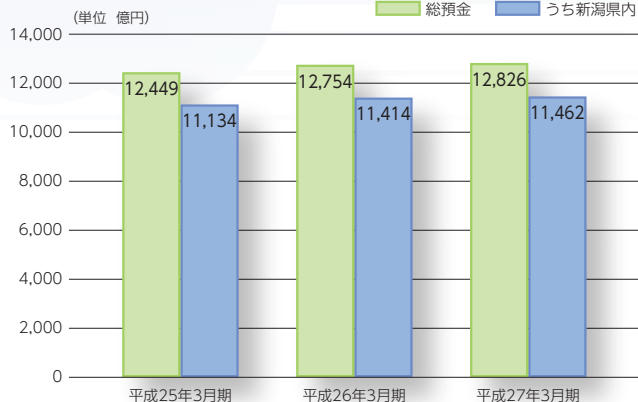


# 平成27年3月期決算の概要

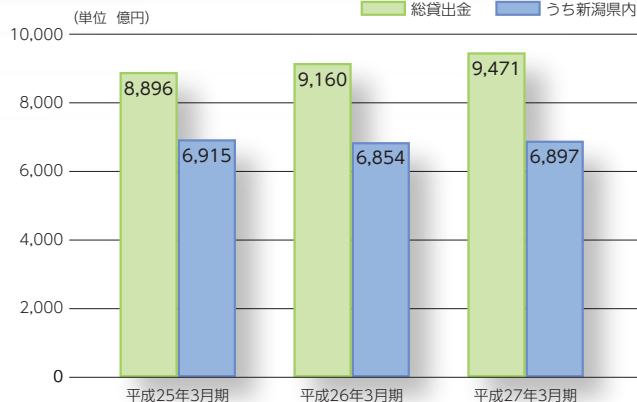
## ■ 預金残高



預金残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年同期比72億円増加の1兆2,826億円となりました。

新潟県内預金残高は1兆1,462億円、県内預金比率は89%です。

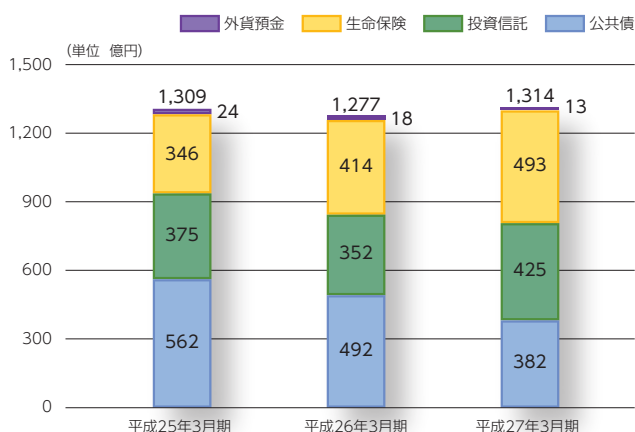
## ■ 貸出金残高



貸出金残高は、中小企業向け貸出を中心に事業者向け貸出が増加したほか、個人向け貸出、地公体向け貸出のいずれも増加し、前年同期比311億円増加の9,471億円となりました。

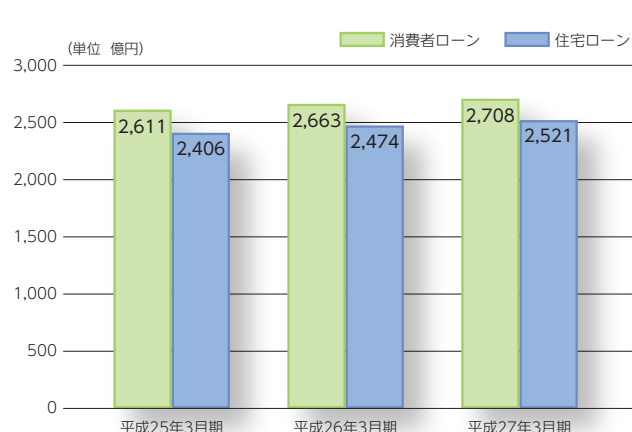
新潟県内貸出金残高は6,897億円、県内貸出金比率は72%です。

## ■ 預り資産残高



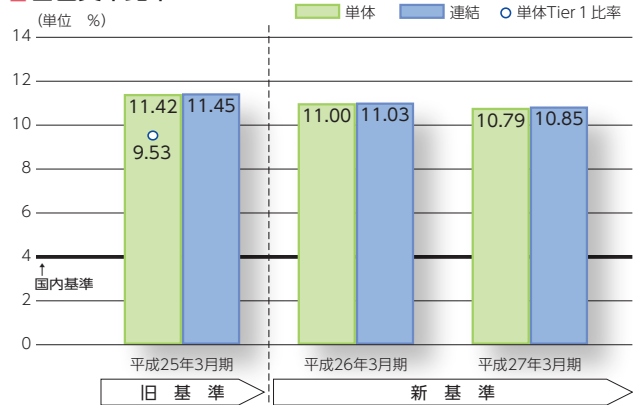
預り資産残高は、新商品の導入などにより投資信託、生命保険の残高が増加し、前年同期比37億円増加の1,314億円となりました。

## ■ 消費者ローン残高・住宅ローン残高



消費者ローン残高は、住宅ローンが増加したことなどから前年同期比45億円増加し、2,708億円となりました。

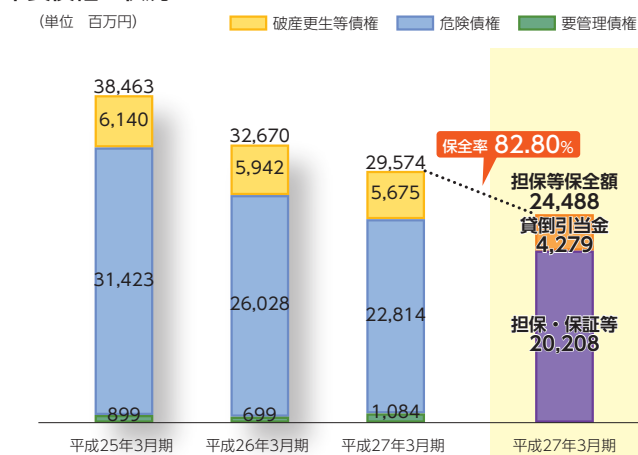
## ■ 自己資本比率



自己資本比率規制に関する告示が改正され、平成26年3月末より新基準にて算出しております。

自己資本比率は、単体が10.79%、連結が10.85%といずれも規制値の4%を大きく上回る水準であり、引き続き高い健全性を維持しております。

## ■ 不良債権の状況



金融再生法に基づく開示債権額は、前年同期比31億円減少の295億円で、総与信額に占める割合は3.10%となりました。開示債権額のうち82.80%を担保等でカバーしており、保全状況は十分な水準にあります。

### 自己資本比率とは

貸出金や有価証券などの総資産（リスクアセット）に対する自己資本（資本金・内部留保など）の割合を示すもので、高いほど健全といえます。当行のように国内業務のみを営む銀行は4%以上を維持することが義務付けられています。

## ■ 損益の状況

(単位 百万円)

	平成27年3月期	平成26年3月期	増減
業務粗利益	17,920	17,668	252
(資金利益)	(16,903)	(17,352)	(▲ 449)
(役員取引等利益)	(576)	(490)	(86)
(国債等債券関係損益)	(868)	(▲ 236)	(1,104)
経費	13,320	14,288	▲ 968
一般貸倒引当金繰入額	▲ 22	153	▲ 175
業務純益	4,622	3,225	1,397
(コア業務純益)	(3,732)	(3,616)	(116)
不良債権処理額	1,515	1,202	313
株式等関係損益	180	190	▲ 10
経常利益	3,585	2,992	593
当期純利益	1,651	1,349	302

$$\text{業務純益} = \text{業務粗利益} - \text{経費} - \text{一般貸倒引当金繰入額}$$

$$\text{コア業務純益} = \text{業務純益} + \text{一般貸倒引当金繰入額} - \text{国債等債券関係損益}$$

### <前年同期との比較>

#### ■コア業務純益

資金利益は減少しましたが、役員取引等利益の増加や経費の減少などにより1億16百万円の増益となりました。

#### ■経常利益

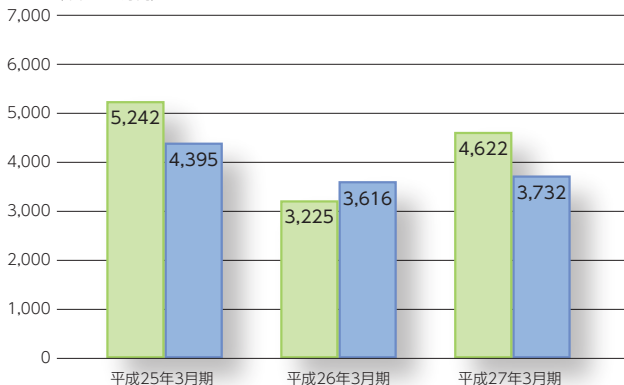
不良債権処理額は増加しましたが、国債等債券関係損益の改善などにより、5億93百万円の増益となりました。

#### ■当期純利益

実効税率引下げによる繰延税金資産の取崩しなどにより、法人税等調整額を含めた税金費用が増加しましたが、経常利益の増加を受け、3億2百万円の増益となりました。

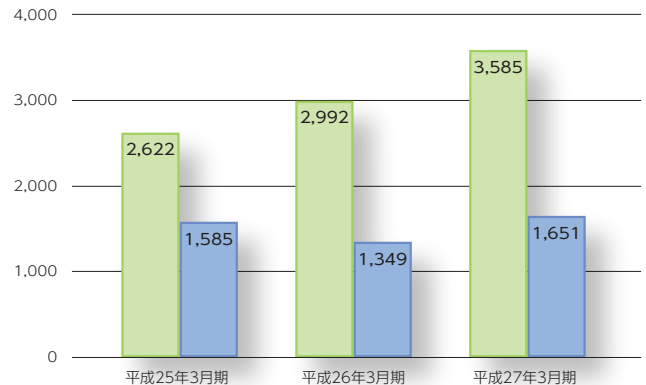
## ■ 業務純益・コア業務純益

(単位 百万円)



## ■ 経常利益・当期純利益

(単位 百万円)



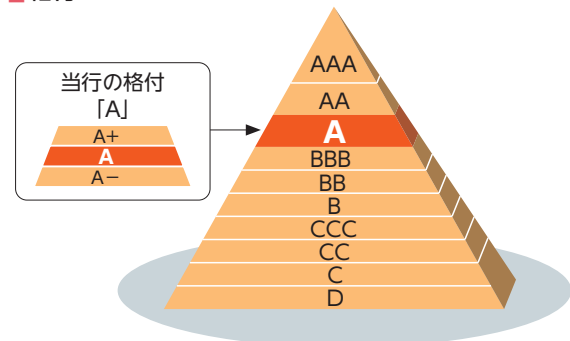
## ■ 有価証券の評価損益

(単位 百万円)

	平成27年3月期	平成26年3月期	増減
満期保有目的	52	▲ 198	250
その他有価証券	23,129	14,003	9,126
株式	5,943	3,543	2,400
債券	7,329	6,074	1,255
その他	9,856	4,385	5,471
合計	23,181	13,805	9,376

有価証券全体の評価損益は231億81百万円となり、前年同期比93億76百万円増加しました。

## ■ 格付



株式会社日本格付研究所 (JCR) より格付を取得しています。

○格付：「A」（シングルAフラット）

○格付の種類：長期発行体格付

※「A」評価とは債務履行の確実性が高く、JCRの格付20ランク中上位6番目にあたります。

※長期発行体格付とは、債務者（発行体）の債務全体を捉えて、その債務履行能力を評価したものをいいます。

※AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして「+」もしくは「-」の符号による区分があります。

○安全性が高く評価されております。